

第 1 章

50 年のあゆみ

50 Years of Progress



経歴

1952年生まれ(72歳)

米子がいな太鼓保存会 専務理事

- 1974年 米子市の郷土芸能「米子がいな太鼓」の結成時にメンバーとして参加、以降太鼓の指導に当たる
- 1976年 初の子供連の就将子供連結成、指導に当たる
- 1978年 福米東子供連結成、指導に当たる
- 1979年 ナショナルマイクロモータ連結成、指導に当たる
- 1980年 中高生の若あゆ連結成、指導に当たる
- 1981年 米子信用金庫連結成、指導に当たる
- 1983年 米子高島屋連結成、指導に当たる
米子独特のオリジナル曲を発表、
以降現在まで約50曲作曲、指導に当たる
- 1987年 NTT連結成、指導に当たる
- 1988年 名和奏友会結成、作曲指導に当たる
- 1989年 市役所連(現錦栗連)結成、指導に当たる
- 1992年 マイカル連結成、指導に当たる
- 1993年 鳥取県和太鼓連盟結成、事務局長に就任
米子がいな太鼓保存会事務局長に就任
- 1997年 溝口鬼面太鼓結成、作曲指導に当たる
- 1999年 酸友連結成、指導に当たる
- 2001年 奥日野源流太鼓結成、作曲指導に当たる
- 2003年 米子がいな太鼓保存会専務理事に就任
鳥取県和太鼓連盟会長に就任
- 2004年 独特なリズムと所作の「米子流」を創設、初代宗家を拝命
- 2012年 米子市文化振興善行者表彰
- 2014年 米子流創始者を拝命
- 2024年 現役50年表彰



太鼓を打つ心「鼓動心響」で50年

「鼓動心響」は私が作った造語である。

私が太鼓を打つ時はいつもこの言葉を思い浮かべながらバチを握る。人々の心に響く太鼓を打ち続けて50年を迎えた。

昭和49年に私を含む11名のメンバーで産声を上げたがいな太鼓は、その曲想が素晴らしく、打ち手が増えていった。がいな太鼓は他にはあまり類を見ない太鼓で、オーケストラ風のリズム組曲、武道の如く切れのある所作、この二つが最大の特徴である。又、多くのオリジナルを作曲。その結果が創立50年を迎えることができた最大の要因だと言えると思う。しかし創立から約5年間は存続するのに大変な苦労を強いられた。順風満帆に思えるがいな太鼓の歴史だが、一度存続が危ぶまれた時期がある。誕生してから3年経った時、青年会議所のメンバーが全員やめたためだ。残った5名のメンバーは友人に声をかけやっとの思いで10名まで増やし、何とか存続させることができたが、太鼓を打つ技量はまだまだこれからだった。師匠に作ってもらった曲はがいな太鼓とリズム遊びの2曲で、5年で師匠の元を離れたために、後は自分たちで成長していく以外方法はなかったのである。

それ以後、10年、20年と月日は流れて行った。その間に徐々に作曲の手法を身に着け、太鼓の打ち方を身に着け、そして30年たって米子流がいな太鼓を堂々と世間に披露するに至り、今年、半世紀となる創立50年を迎えたのだ。

これからこのがいな太鼓は若い打ち手により、様々な方向に発展をして行くだらう。それを楽しみにしながら、私も一步一步進みたいと思う。

米子流創始者

— 本田 幸男



経歴

- 1967年生まれ(58歳)
米子がいな太鼓保存会 常務理事
- 1978年 福米東子供連入団(第1期生)
がいな太鼓を始める
- 1980年 若あゆ連入団(第1期生)
- 1986年 若連に入団、以後、下記チームの指導に当たる
(米子信用金庫連、高島屋連、NTT連、市役所連、若あゆ連、就将子供連)
- 1994年 極結成、プレーヤー兼、指導に当たる
- 1996年 就将子供連オリジナル曲「KODAMA」作曲
- 1999年 匠結成、加入
- 2004年 尚徳子供連立ち上げ、指導に当たる
- 2009年 颯連立ち上げ、指導に当たる
颯連オリジナル曲「颯」作曲
35周年コンサートOP曲「心」披露
- 2002年 米子がいな太鼓保存会事務局長に就任
- 2005年 響子供連、鼓若子供連立ち上げ、指導に当たる
- 2006年 米子がいな太鼓保存会常務理事に就任
- 2014年 米子流がいな太鼓 二代宗家を拝命
- 2024年 現役40年表彰

50年、そして、さらにその次へ！

米子がいな太鼓が記念すべき50周年を迎えることができましたのも、ひとえに、地域の経済界、行政、市民の皆さまのご理解とご支援があってこそと考えており、まずもって感謝とお礼を申し上げます。

この度、50周年を機に、米子市から「米子市認定伝統芸能」に認定されました。ようやく米子に根付いてきたのかなと感じております。

これまでがいな太鼓が継続できた大きな理由として、発足2年目から子供連を創設し、青少年育成に力を入れ、打ち手のすそ野を広げてきたところにあります。本田創始者をはじめ、先達の方々の先見の明に大いに感服するところです。もうひとつの要因は、魅力あるレパートリー曲の多種多様さにあると思います。

今後の100年を見据えて、次のステージに一步踏み出し、地道な努力や取組をやっていかなければなりません。私が先人の方々から教わった太鼓の技能、人とのつながりや仲間の大切さなど、一言でいうと「太鼓愛」ですが、これを継承し、若い世代に伝えていきたいと考えております。また、現状に甘んじず、新たな子供連の創設など、さらなる手立てを講じていく必要があります。

そのためには、若い世代が、最高の仲間を作って、主体性をもって、がいな太鼓をさらに発展させていってほしい。心からそう願っております。みなさん、「夢を持って共に頑張りましょう!!!」

二代宗家

— 仙田 英人

米子がいな太鼓の 誕生ヒストリー

－ いかにして「米子がいな太鼓」は誕生したのか －

誕生の背景

昭和49年（1974年）、「米子がいな祭」がスタートしそのイベントの一つとして「全国有名太鼓競演」が企画された。その時、後の「米子がいな太鼓」の作曲者である天野宣氏も「甲府武田出陣太鼓」を率いて参加をされたのである。

そして、当時の祭り企画実行本部長が今は亡き元会長の鶴田武久氏であり、出演依頼をするために全国を回られた方が、今は亡き深沢毅吉氏であった。



1974年 第1回米子がいな祭



1974年 第1回全国有名太鼓競演

誕生のきっかけ

（米子がいな太鼓の前身 J・C太鼓）

「米子がいな祭」を主催した主な団体は、米子青年会議所（J.C）とつつじグループ（T.G）であり、第一回目の祭りの反省会において、郷土芸能が何一つ無い米子市に太鼓を作ろうとの話が持ち上がった。当時の米子市助役篠田伊三郎氏に太鼓購入の嘆願をし、米子青年会議所数人の有志が境港の「荒神神楽太鼓」を習いJ.C太鼓としてスタート、「第1回米子とんど祭り」でデビューを飾った。



1975年1月8日 当時の新聞記事

昭和49年（1974年）、産声を上げた米子市を代表する郷土芸能「米子がいな太鼓」。

1団体11名でスタートしたメンバーも現在約140名と単一団体としては全国に類を見ない

組織へと成長した。これからもその優れた芸能文化を伝承して行くために、

その原点をしっかり記憶しておかなければならない。

「米子がいな太鼓」の誕生

境港と同じ太鼓では米子市の郷土芸能とは言えず、米子独特の太鼓でなければ意味がない。色々検討した結果、山梨県甲府市在住の太鼓奏者である天野宣氏に白羽の矢を立てた。当時、天野宣氏は四国の善通寺から作曲指導の依頼を受けていたが、米子の熱心な誘いに善通寺に作曲するはずであったオーケストラ風の曲想を米子の曲とした。そして「米子がいな太鼓」が作曲されたのである。

昭和50年（1975年）2月、いよいよ天野氏が来米され、初練習が福米東小学校の体育館で開催された。米子青年会議所、つつじグループの両団体から約50名が参加したが、当時の太鼓は平太4台、近台1台、鉦1個と少なかったため、当然のことながら全員が太鼓にはつけず、しかも太鼓の譜面がまったくわからなかったこと等が原因で、参加人数は日を追うごとに少なくなって最終的には11名となったのである。



1975年 がいな太鼓デビュー

デビュー

初練習から6ヶ月間、毎週2回、隔週の日曜日と猛練習の結果、6月に関係者を集めての発表会、そして当初の目標であった「第2回米子がいな祭」でデビューを飾った。その独特な曲想の「米子がいな太鼓」を聞いた米子市民の驚きと、歓声と、拍手の嵐にメンバー一同は大感激をしたのである。

しかしながら太鼓の練習は騒音との戦いであった。現在は存在していないが産業道路沿いの北陽建材、内浜下水処理場と周辺住民の苦情から練習場を転々とし、米子鉄工センターの菊水フォーミングに落ち着くまではまさに流浪の旅であった。その後、米子市文化活動館（旧米子市勤労青少年ホーム）が正規の練習場となったのである。



1975年 初代宗家のデビュー



1976年 勝田神社初打ち



初打ち1回目（1976年）



国際青年会議所世界大会（1978年）

がいな太鼓誕生から20年



昭和 50 年 ~ 平成 6 年

History of Gaiina Daiko

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 1975 | 米子がいな太鼓誕生記念発表会
花柳徳兵衛と日本の太鼓 | 1986 | 米子市観光キャンペーン |
| 1976 | 日本のリズム太鼓祭り | 1987 | 山中鹿之助幸盛祭 |
| 1977 | 広島フラワーフェスティバル
三次さんさい祭り | 1988 | 台湾遠征
卯月会＝三笠宮殿下来米＝ |
| 1978 | 秋の芸術祭
国際青年会議所世界大会 | 1989 | 横浜博覧会
米子がいな太鼓15周年記念コンサート |
| 1979 | 米子がいな太鼓5周年記念コンサート
日米協会新年会
「風林火山」レコーディング | 1990 | 大阪花博 |
| 1980 | 第3回西日本豊かな郷土展
鳥取県物産展
国際青年会議所世界大会 | 1991 | 全国物産展
米子市観光キャンペーン |
| 1981 | 第3回鳥取県青年の翼 | 1992 | 米子市観光キャンペーン
国民文化祭 |
| 1982 | ハワイ祭り | 1993 | シンガポール公演
鳥取県和太鼓連盟設立記念コンサート |
| 1983 | 日本青年会議所第32回中国地区会員大会 | 1994 | 米子がいな太鼓20周年記念コンサート
和太鼓ふるさとの響き'94
とっとり女性のまつり |
| 1984 | 米子がいな太鼓10周年記念コンサート | | |
| 1985 | 第40回国体夏季大会開会式
第40回国体冬季大会開会式 | | |



米子市民余芸大会（1983年）



10周年コンサート（1984年）



西日本豊かな郷土展
（1980年）



第40回国体夏季大会開会式（1985年）



米子がいに太鼓
誕生五周年記念コンサート
パンフレット



第13回米子がいな祭（1986年）



第14回米子がいな祭（1987年）



米子盆踊り大会（1986年）



卯月会（1988年）



第18回米子がいな祭（1991年）



第6回米子がいな祭（1979年）



30周年コンサート（2004年）



30周年コンサート（2004年）

がいな太鼓21年から40年

1995	中国・四国交流イベント 和太鼓ふるさとの響き'95	2005	愛・地球博「鳥取県の日」 鳥取県青少年郷土芸能の祭典2005 全国生涯学習フェスティバル開会式 鳥取県和太鼓連盟コンサート2005
1996	鳥取物産展 鳥取県・江原道子ども太鼓フェスティバル 和太鼓ふるさとの響き'96	2006	全国スポーツレクリエーション祭り 鳥取県和太鼓連盟コンサート2006
1997	鳥取物産展 中四国6県共同物産展 鳥取県・江原道子ども太鼓フェスティバル 和太鼓ふるさとの響き'97	2007	鼓響伯耆大山和太鼓フェスティバル 鳥取県和太鼓連盟コンサート2007 全国和牛共進会 鳥取県青少年郷土芸能の祭典2007
1998	鳥取県観光と物産展 和太鼓ふるさとの響き'98 日本太鼓フェスティバル	2008	小羊チャイルドセンター40周年記念 鳥取県和太鼓連盟コンサート2008 郷土の民俗芸能大会
1999	鳥取県観光と物産展 韓国江原道エキスポ 和太鼓ふるさとの響き'99 米子がいな太鼓25周年記念コンサート	2009	日本の祭り2009鳥取 国民文化祭・しずおか2009 鳥取県和太鼓連盟コンサート2009 米子がいな太鼓35周年記念コンサート「鼓動心響」
2000	日南町太鼓フェスティバル 建築士全国大会	2010	鳥取県和太鼓連盟コンサート2010
2001	山陰道開通プレイベント 鳥取県民族芸能大会 和太鼓ふるさとの響き2001	2011	鳥取県和太鼓連盟コンサート2011 全国豊かな海づくり大会
2002	米子がいな祭「バーリントン太鼓競演」 国民文化祭オープニングパレード 国民文化祭「和太鼓競演会」 国民文化祭「グランドフィナーレ」	2012	鳥取県和太鼓連盟コンサート2012 国際マンガサミット鳥取大会
2003	民謡松弘美15周年発表会 和太鼓ふるさとの響き2003 ジャパンフラワーフェスティバル	2013	全国植樹祭 鳥取県和太鼓連盟コンサート2013
2004	米子がいな太鼓30周年記念コンサート「鼓動心響」 全国癌学会	2014	鳥取県和太鼓連盟コンサート2014 和太鼓フェスティバル 米子がいな太鼓40周年記念コンサート「鼓動心響」



鳥取県・江原道子ども太鼓フェスティバル（1996年）



第25回米子がいな祭（1998年）



米子がいな祭「パーリントン太鼓競演」（2002年）



日本太鼓フェスティバル（1998年）



35周年コンサート（2009年）



鳥取県和太鼓連盟コンサート（2012年）



40周年コンサート（2014年）



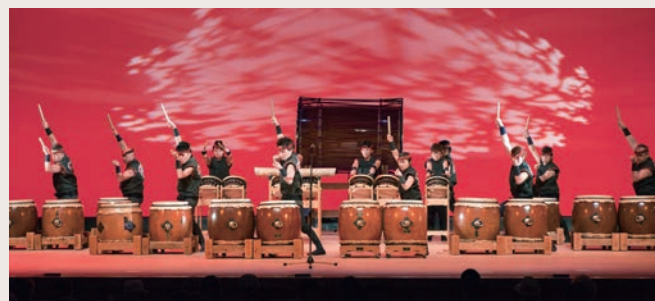
35周年コンサート（2009年）



35周年コンサート（2009年）



40周年コンサート（2014年）



40周年コンサート（2014年）



米子市・韓国束草市姉妹都市20周年（2015年）

がいな太鼓41年～50年

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 2015 | 米子市・韓国束草市姉妹都市20周年記念公演
鳥取県和太鼓連盟コンサート2015
国民文化祭がしま2015 | 2022 | 健康ボクシング大会 入江聖奈杯
啓成公民館創立50周年記念式典
鳥取伝統芸能まつり
米子がいな太鼓定期演奏会「鼓動心響だんだん」
(第5回～9回)
鳥取県西部オレンジリボンたすきリレー
大山お地蔵さまフェスティバル |
| 2016 | 米子市音楽祭ファイナルコンサート
「音のはじまり邦楽典雅」
鳥取県青少年郷土芸能の祭典2016 | 2023 | 米子駅がいなロード開通イベント
ラジオ関西祭り
米子がいな祭50周年記念式典
米子がいな太鼓定期演奏会「鼓動心響だんだん」
(第10回～12回) |
| 2017 | 鳥取県総合芸術文化祭とりアート
ダンス公演「磨公部主」
トワイライトエクスプレス瑞風・おもてなし事業
東アジア地方政府観光フォーラム
FriendsGroupブラジル2017懇親会
海外インセンティブツアー台湾歓迎セレモニー
鳥取県和太鼓連盟コンサート2017 | 2024 | 米子城ガイダンス施設オープニングセレモニー
第68回鳥取県植樹祭オープニングアトラクション
米子市水辺の学校オープニング式典
リアルDE伝統文化教室
ねんりんピックはばたけ鳥取2024総合開会式
ねんりんピックはばたけ鳥取2024米子会場 競技開始式
第36回全国福祉祭とっとり大会「地域文化伝承館」
鳥取県西部地区オレンジリボンたすきリレー
米子がいな太鼓50周年記念コンサート「鼓動心響」 |
| 2018 | 小羊チャイルドセンター50周年記念
鳥取県青少年郷土芸能の祭典2018 | | |
| 2019 | 韓国インセンティブツアー団体歓迎イベント
出雲神話まつりオープニングセレモニー
米子がいな太鼓45周年コンサート「鼓動心響」 | | |
| 2020 | 上海吉祥航空総裁歓迎会
米子がいな太鼓「鼓動心響2020inアルテピア」 | | |
| 2021 | 東京2020オリンピック聖火リレーミニセレブレーション
入江聖奈選手祝賀会
JAいなば謝恩の集い(2021～2022 全10回公演)
米子がいな太鼓 和太鼓コンサート2021inアルテピア
米子がいな太鼓定期演奏会「鼓動心響だんだん」
(第1回～4回) | | |

鳥取県青少年郷土芸能の祭典（2018年）



出雲神話まつり（2019年）



JAいなば謝恩の集い（2021年）



東京2020オリンピック聖火リレー（2021年）



鳥取県総合芸術文化祭
とアートダンス公演
「磨公部主」（2017年）



YumeFes（2023年）



啓成公民館創立50周年
記念式典（2022年）



入江聖奈選手 五輪金メダル獲得祝勝会



鳥取県西部オレンジリボンたすきリレー（2022年）



リアルDE伝統芸能
（2024年）



だんだん演奏会inつながるマルシェ（2023年）



ラジオ関西祭り（2023年）



米子城ガイダンス施設オープニングセレモニー（2024年）

Development Persons

— 伝統を受け継いだ人たち —



米子がいな太鼓の 知られざる当時の物語

米子がいな太鼓のメンバーが、チーム発足時の経験や次世代への思いを語り、絆を深めたエピソードを紹介します。

▼ MEMBER PROFILE



コーディネーター
杉村 聡



保木本賢一
(錦聚連)



遠藤千尋
(若連)
※以後、遠藤ち



草瀬直美
(若連)



松浦絢二
(酸友連)



矢田貴之
(酸友連)



遠藤史章
(錦聚連)
※以後、遠藤ふ



青砥宏英
(若連)

【 がいな太鼓を 始めたきっかけ 】

杉村 太鼓を始めたきっかけと入ってどうだったか、エピソードがあれば教えてください。

矢田 2000年に会社の全体会があって、その時に演奏を見たんです。当時がいな太鼓に正直、全然興味がなかったんですけど、演奏をみて、ちゃんとしているなという印象を受けました。その後に、佐野さん(2代目リーダー)から「おまえもやれ!」って言われたんで、すんなり入れました。入った年は、酸友連が初めて“がいな太鼓”を打った年で、僕が練習に初めて行った時は、“がいな太鼓”の練習をしていて、ベースも打てない、だけど人数も足りない。自分なりにがんばって、コーチの柴田幹也さんから「打てないけど、出てみーや」と言われ、その年のがいな祭で演奏することが出来た。その初めて出た時に、今日のコーディネーターの方(杉村さん)にボロクソに言われたんです。(一同 笑)

祭りの後打上げがあって、僕がそのデビューした下手な奴だと知らずに「下手な人が1人おったなー、あんなん出したらいけないと思うわー」って言われ、「必ず、杉村さんを見返す!」っていうのが次の祭りまでのいいモチベーション

ンになりました。それで続けてこれたので、今となっては恩人です。これが初期の頃の思い出です。

杉村 いやいやいや〜。毎回この話が出ると、謝るんだけど。うん、必ず謝ることになってる！

青砥 同期入社で、すでがいな太鼓をやっていたのが松本規志。メーデーのステージに出るので、なんとなしに見ていたら、「やっペー、かっこいい！俺もやりたい！」と思って始めました。マイクロモータ連では、芝田康文さんにすごくかわいがってもらって、会社のイベントでいろんなところにも行かせてもらい、その楽しい思い出があったから続けられた。杉村さん達にハメられて、今までいろいろな担当をしてきました。メンバーが200人いるのを、どう段取りをしながら完成系にしていくなかを学べることは、すごい経験だった。今となっては、ハメられたけどありがたいと思っています。

杉村 また、謝らんといけんな。(笑)

松浦 自分が入社した前の年に酸友達ができたんです。入社して有無も言わず連れて行かれたっていうのがきっかけです。当時、米子支店に増田安奈さん(現:仙田安奈)っていう人がいて、「今日の練習に来なさいよ!」と激詰めされて練習に行ったのがきっかけです。訳もわからないまま練習して、がいな祭前の合同練習の時に、大人の皆さんから「どうせすぐに辞めるんだろ!?!」みたいな感じで見られてて、見返したいな!って思ったのが続けていく力になった。メンバーも辞めたり定着しない中、当時の佐野リーダーとやってきたのが大きなやる気になった。

杉村 矢田ちゃん、絢ちゃんは、褒められるよりけなされて伸びるタイプなんだね! (一同 笑)

草瀬 私はこの中で唯一の子供連からなんですが、就将小学校のクラブ活動の紹介で太鼓をみて、ただただ、いいな!って思ってた入りました。杉村さん、保木本さんに



指導してもらいました。当時は、太鼓が特に好きではなかったんですけど、一緒にやっていた民野さんの実家で遊べる、お菓子も食べられる、おいしいグラタンも食べられるっていう楽しさで続けてました。若あゆに上がったのも、民野さんが入ったから。私は進学して県外に出るつもりでいたけど、若あゆ連で最後のがいな祭がすごく楽しくて。当時の仙田宗家のようになりたいな!って思って、太鼓を続けるために地元に残りました。続けてみたら、大変なことばかりで(笑)。若い女性が少なかったんで、「ボロクソに言ってくる人よりも、上手になればいいんだ



ろ!」っていう気持ちで続けていると思います。

遠藤ふ 私は、15周年の年に亡くなられた前川さん(市役所連初代リーダー)が、市役所のチームを作るぞ!って、市役所中駆け回って人数をかき集めておられ、その中に私も含まれていました。うにやうにゃと言ったら、「お前やるのか、やらんのかどっちだ!?!」って言われて、「やります!」って言ったのが始まりです。当初は本田さんが指導者で、初めは40人くらいいたと思いますが、練習の度に人数が減っていくんですよ。ある練習の時に、本田さんに連れと自分との二人が「やる気がないなら出ていけ!」って言われまして、一緒に言われた連れはバチを置いて出て行ってしまいました。そのバチを拾い上げたのが私で、今でもそのバチは大切に持っています。

保木本 私も前川さんに誘われて。もともと新しいことに興味もあって、やりたいなって思って、気持ちよく入りました。太鼓は見たこともなかったけど、少しずつ上手になっていくのが面白かったのかな!?!初めてがいな太鼓を見たのは、若連のながえ祭りでの演奏。かっこよかったな!って覚えている。それからは憧れ、どうしたら出来るかな?っていう気持ちになりました。市役所連は、全員、スタートが一緒だったんで、前川さんと杉村さんに引っ張ってもらいながら、やっていったというのが続けられた理由かな!?

遠藤ち 入るきっかけは、友達の石田千登勢さんがチャーターメンバーだったんで「太鼓をやりたい!」って伝えた。「結構格好いいな!」っていうのが第一印象。当時の自分は、思ったらバツてやっちゃうタイプで、すぐに練習に行かせてもらいました。当時、若連の持ち曲が5曲、即その全部の曲の譜面を渡されて、「これを覚えなさい」からスタート。入ったのが4月、祭りがある8月までに全部覚えるのは無理なんで、オープニングと鼓勇の2曲を必死に覚え、何とかがいな祭に間に合わせた。当時はステージが年間200ぐらいあって、一番覚えているのが、前列でおばあさんが数珠を持って、拝むように見ておられたという…。

杉村 お坊さんと間違われたんじゃないの?

(一同 笑)





杉村 市役所連が出来たのは、当時、市は補助金を出したり、パレードに出るだけだったけど、JCが当時の市長に「市役所は祭りに何も出んだか!?市のイベントとしてやっとうのに、なんで市役所の職員が祭りに参加せんのか!」っていう声がでて、最初に万灯チームができた。その時に前川さん(市役所連初代リーダー)が、福米東子供連の団長をして、「第二弾で太鼓を創る!」となって。本田さんと意気投合して、「自分がメンバーを集めてくるけん!」、本田さんが「だったらわしが指導するわ!」っていう話になった。当時は太鼓を聞いたことなかったんだけど、住んでいる尚徳地区に太鼓が来て初めて聞いた。特に、近台の遠藤孝幸さん(若連2代目リーダー)のソロに感動した。

【 継続の理由とメンバーの思い 】

杉村 仕事とかいろいろあると思うけど、長いことするという事は凄いことだと思う。なんで今まで現役を続けてきたのか、これとかという話を聞かせてほしい。

草瀬 辞めるタイミングを逸してますよね。定年があるわけでもないし。まして上の人達が辞めないのに辞めたいと言えないのが、今の空気感(笑)

遠藤ち 当時は今ほど組織化されていないし、太鼓そのもののやり方、考え方が根本的に違うっていうのがあって。当時、譜面はあるんだけど、今ほど音符にこだわってなく、まず体で覚えろ!曲は耳で覚えろ!みたいな。結局30代~40代前半がピークで、45歳くらいだと勘弁してくれよみたいな…。

青砥 僕らみたいな歳までやってる人、おらんかったもん。42、3歳くらいでMAXくらいだったんじゃないかな。だから自分が50歳までやってるイメージがなかった。

遠藤ち チャーターの方とかは、ピークを過ぎて「もう疲れてきたわ」っていうタイミングで引退されていかれた。今は、作曲とか子供連の指導とか、皆さんいろんなことをされてるわけで。そうなってくるとプレイヤーとしてよりも、組織を保存していくためにがんばる!っていう気持ちで、ずっと繋がっているのかな!?

杉村 メンバー数の関係で、自分が辞めたら曲が満足に打てない状況もあったのかな!?市役所連もそんな時期があったけん。

遠藤ふ 6人でやった時もありました。

草瀬 それこそ、市役所連が錦聚連になったのは、人が辞めたとか、なんかあったんですか?

杉村 市役所職員のメンバーは減って、逆に市役所以外の人が増えてきて、このまま「市役所連」っていうのもな?っていうことで、遠藤(史)が「錦聚連」っていう良い名前を考えてくれた。

保木本 新しいメンバーがそのきっかけをくれていることもあるし、一緒に楽しみが湧くっていうか…。メンバーが替わりつつ、演奏するパートもいろいろ替わったりというのもあるって、続けているっていうのもあります。

杉村 企業チームは社員じゃないと入れないから、難しいよね。かといって強制的に入らせる時代でもないよね。



松浦 正直、今の酸友連の形が出来たのは、主力のメンバーが同世代だったんですよ。競い合うようにやってたし、極にも入らせてもらってすごく楽しかったけど、どうしてもそこで出来上がってしまっていて…。あとから入ってくる子もいるんですけど、そこに壁があったりして、なかなか続かない。自分がリーダーをしていた20年間の中で、もう少し上手にできなかったかな?っていう反省もあるんですけど…。

杉村 まだ存続しとるけん!これからだわ。がんばれば、また復活するわ!

松浦 なんとかねー。25年やってきているんでね。無くしたくないっていうのはあるんでね。

矢田 企業チームなんで、平野裕晴君みたいな子が理想だと思うんです。太鼓が続けたいから、地元に残って、うちみたいな地元の企業に就職するみたいな。そのためにも残さないといけない!

杉村 がいな太鼓採用枠をつくったら?

矢田 ぜひ!

【 祭りの打ち上げと 感動の瞬間 】

杉村 みなさんの思い出に残っているエピソードを聞かせてください。

青砥 初めてのがいな祭担当をした時、2日目の湊山公園の野外ステージが終わって「今年一番がんばったのは、青砥だ!」と本田さんに褒めてもらって「みんなで胴上げしよう!」って言ってもらって。生まれて初めて胴上げしてもらった。

遠藤ち えっ!俺の時はなかったなー。

松浦 俺もそれ見てるんで、青砥さんから祭り担当を引き継いだ年に胴上げしてもらえると書いていたら…何もなかったんですよ(哀)

杉村 僕の時もなかったわ。僕らと青砥の違いは何だ?(笑)

青砥 いやー、あれは本当にうれしかった!!

草瀬 コロナ前までやっていた祭当日の打ち上げは本当に楽しかった。あの打ち上げで各チームの新人さんの紹介があったりして、他のチームと交流を持てた。

杉村 自分がステージしてこれは本当に感動したとか、思い出深い事がありますでしょうか。いい思い出もたくさん持っておられると思いますので…。

遠藤ち 祭り担当をやって、「祭りが終わったら、ちーちゃん、絶対に泣くよ」って仙ちゃん(宗家)に言われたけど、「何が泣くだ!」って思った。けど、野外で“がいな太鼓”が終わったら感動がこみ上げてきた。感動するっていうこと自体、自分の人生にはなかったけど、その時は泣いちゃった。自然と涙が出てくる。みんなと握手しながら「お疲れさまー!」って。普段の生活では味わえない、太鼓に携わったからこそ得られたものなのかな!?

保木本 全チームが集まって野外ステージを創りあげる、その瞬間をみんなで讃えていることに尽きるのかな!最後の“がいな太鼓”の演奏に感動があった。

青砥 昔はそのステージで“がいな太鼓”を演奏できるのは、選ばれた人しかっていうステータスがあって、特別感がありましたよね!

保木本 今の若いメンバーもこれを経験したら、より太鼓が好きになるんじゃないかなって思います。

遠藤ふ 思い出深いステージはデビューした年の祭で、なぜか市役所連で私だけ、最後の“がいな太鼓”に出させてもらって。隣は仙田宗家で全然所作とかも違うんで、前の日も練習しました。当日の野外ステージでは、ステージの前で市役所連のメンバーが見てくれていて、終わった瞬間にみんなから頭をベチベチされました。

保木本 覚える。市役所連代表でね。うれしかった。がんばれー!って祈って見ていました。

遠藤ふ 当時、まだ譜面が全く読めなくて、ドンドンとかドロドロとか全部鉛筆で書いていました。今でも思い出



しますが、本田さんが黒板に音符をすらすら〜って書いて「遠藤、これわかるか?これ何拍だ?」って聞かれるけど、さっぱりわからなくて訳のわからないことを言ってましたね。懐かしいです。

草瀬 野外ステージで演奏するのはもちろんなんですけど、今、指導者となって思うのは、子ども達は演奏が終わって解散した後も最後まで見てくれていて。最後の最後に、「子ども達、ステージに上がってこいよー!」って、子ども達もステージに上がってきて、コーチの近くに来て一緒に写真を撮ってという…。ここ10年くらいなんですけど、子ども達も「あー、楽しいがいな祭だったな!」って思ってくれるのが、私はすごくうれしい!

松浦 強烈に覚えているのが、酸友達はしばらく“打込み太鼓”をしていて、ようやく何年目かで“がいな太鼓”やってみるか?って言われて。本田コーチのもと合宿で2日間、ヘトヘトになるくらいまで練習をして。その合宿の最後の最後に打った“がいな太鼓”の演奏後に、本田さんが「ええ“がいな”をみせてもらったわ!」って言ってくださってね、それでバーっとこみ上げてきて。まだまだ粗削りだったけど、全員が一つになって、魂、気力体力の全てが乗った“がいな”、あれが一番印象に残っています。いまだ、あれを超えられていない!って思います。



青砥 やっぱりがいな祭は特別。祭り担当をしたときは達成感と開放感で毎年泣いてた。担当を替わってからは、もう泣くことはないなって思っていたけど、一度戦線離脱したことがあった直後の祭りで、練習でビービー泣きながらでもやっていた子ども達が、すごくいい演奏して大泣きた。あれ以来、子どもの演奏をみるだけで泣く。そんな良いご褒美をもらっているから続けているかもしれない。



矢田 鮮明に覚えているのは、初めて“義友合奏”を打った祭りの野外ステージ。お囃子でお客さんが手拍子をしてくれて。初めてお客さんを巻き込んで、楽しい!!って思いながら打てました。一番脂が乗ってまとまっていて極に入りたいと一番頑張っていた頃に、ひとつの完成形ができた。演奏をしていて「終わりにたくないな」って思った唯一の演奏ですね。その後の打ち上げ、最高に楽しかった!

【 がいな太鼓への 思いと未来 】

杉村 最後に今の思いでもいいですし、今後のがいな太鼓への期待や長年やってこられた皆さんのがいな太鼓への思いをお願いしたい。

矢田 「なんでがいな太鼓がいいのかな?」って考えた時に、アマチュアがこんだけ人を感動させられるってことは、なかなかないんだろうなって。『だんだん』コンサートとか、組織力として本当に普通の団体とはレベルが違う!それをこれからも続けていって伝統芸能になれば一番いい。個人的には唯一の企業チームとして酸友連を残し、どんどんうちの会社に入ってくれるような受け皿になっていければと思います。

青砥 自分が30年も続けているのは太鼓だけ。昔みたいに人やお金が入り続けるというのはもうない。残り続けるためには変えないといけないこともあるし、変えてはいけないこともある。柔軟性をもって長く続ける、そういう団体であり芸事であってほしい。辞めた後でも「俺、がいな太鼓をやっとてねー」って自慢できる団体になってほしいと思います。

杉村 時代にあった形で、守るべきものは守って、変えるべきものは果敢に変えていくことは必要なことだろうし、それがまた次の世代に繋がるようになるんじゃないかな!?皆さんには、これからそのために次世代のサポートをしてやってほしい。

松浦 何で皆さんがここまで続けてこられたかの極論は、太鼓って楽しいから!そこに尽きると思う。その楽しさを若い子へ伝えることが、僕たちが今までしてもらったことへのお返しだと思う。若い世代にいい経験をして

もらって、自分たちがやりたい新しいがいな太鼓の形を創っていってもらいたい。それをサポートしていくのが僕たちの仕事で、これからもやっていきたいと思っています。

草瀬 続けてこられたのは、先輩方に引っ張ってもらったことや、憧れと目標だった宗家がおられたから。宗家、創始者もいつかは辞められると思うので、次の世代を私たちが支えていく番だと思う。守るべきところはしっかり守りながら…。今までは絶対的存在がおられて、ついて行くという立場でしかたけど、今度はみんなで支え合っていくやり方にしていくと、どんどん裾野が広がっていくのかな!?と思う。その辺りを私たちベテラン世代がしっかり築いていって、そして次の世代にバトンタッチができたらと思っています。

遠藤ふ 私も楽しいことが一番だと思います。ただ、がいな太鼓の「音をみせる」というのは非常に難しい技術。米子の郷土芸能として、人から人へ引き継いでいくものだと思います。個人的には、子どもの指導に携わりながら、若い人たちと議論ができる場があればいいなと思います。

保木本 がいな太鼓は郷土芸能なので、地元の人が親しみをもち、愛されてもらうことを大事にして、打ち手や見ている人が笑顔になれるようにやっていければ続いていると思います。



遠藤ち 若い子が育ち、そのまた次の若い子が魅力を感じていくというのが、これからのビジョンだと思います。同時に50周年を迎えられたのは、メンバーだけではなく、見てくれた皆さんのおかげ。今後も「米子の郷土芸能はがいな太鼓!」というポジションであり続けていくために、子どもも大人も自分を磨き、郷土芸能の一員として恥ずかしくないようにあってほしい。これからも、がいな太鼓というだけで、皆さんから「おお〜!」って思っていただけようになっていかないと!と感じています。

杉村 皆さん、大変良い話をしていただきました。やはり今後存続していく上で、ベテランの皆さんがやれることをしっかりやっていただいて、関わっていただきたいと思っています。今後、若い世代が中心でやっていくと思いますが、ぜひ皆さんも彼らをサポートしていただきたいなと思います。これからも続けられるだけ続けていただいて、がいな太鼓の存続・発展に力を尽くしていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

Frontiers

— 開拓者たち —



創設期メンバーが語る 熱意と未来

がいな太鼓創設期メンバーが、当時の熱意、練習秘話、組織変遷、未来への期待を語り、50年を回顧しました。

▼ MEMBER PROFILE



コーディネーター
本田幸男 (72歳)



小林正美
(74歳)
※以後 小林ま



梅原 功
(73歳)



小林美香
(58歳)
※以後 小林み



柴田幹也
(67歳)
※以後 柴田み



柴田由香
(60歳)
※以後 柴田ゆ



橋谷 明
(71歳)

【 がいな太鼓との 出会い 】

本田 がいな太鼓をやってみようと思われたきっかけというのは、为什么呢？

梅原 私の場合は、昔の三味線とか太鼓が好きだったもので、遠藤孝幸さんに「青年会議所で和太鼓を始めるけどやらんか」と誘ってもらって、面白げだなということで始めました。

小林ま 私の場合は、最初は荒神神楽太鼓の練習に参加して、ちょっと中断してしまったんですが、また遠藤君の方から「やらいや」と誘われて始めたというのがきっかけですね。

柴田み 私は、同じ職場におられた若連の梅林さんに誘われました。中学校では吹奏楽をしてましたが、高校には当時太鼓がなかったものですから。ちょっと変わったものをしてみようかと思ったのがきっかけです。

橋谷 当初、がいな祭をメインでしていた「つつじグループ」というのがあって、そのグループに天野宣さんが来られて福米東小学校で一日太鼓を叩きました。一小節をよう叩けなかったという記憶がいまだに残っています。それで本田君に「太鼓はお前がやってくれ」と言って辞めた



ら、「太鼓がえらい衰退しているようだ」と聞いて、「しゃあない長老が出ましようか!？」となったものです。

柴田ゆ 私はまだ子どもでしたので、きっかけは親の勧めがあってですかね。親と梅原さんの職場が同じで。人見知りで恥ずかしがり屋で、人前でなんて絶対ようせんかったですけど、この太鼓にきつと縁があったんでしょね。太鼓のお兄さん方に可愛がっていただいて、おだてられて、そんなのがあって続けることができたと思います。

本田 私の50年の指導の中で、由香ちゃんは女性を指導するという初めての経験で、それまではずーっと男ばかり。股割りなど、女性はなかなか難しいと思った経験があります。

小林み 私は小学4年生だったと思うんですけど、太鼓を打ちたい人を募集していて、「これはいかなきゃ!」ってやったら楽しくて。小学生で一旦辞めたんですが、高校に入った時に孝幸さんが誘いに来てくださってもう一回始めました。いろんなところに連れて行ってもらえるのと打つ楽しさでとどんどんハマって行って、続けさせてもらいました。

【 米子がいな太鼓の魅力 仲間との絆 】

本田 今皆さんのお話で、若連二代目のリーダーの遠藤孝幸さんという名前が出てきました。遠藤さんという非常に大きな影響力をもった方が御年40歳で亡くなっても随分経つわけですが、彼が非常に勧誘して、がいな太鼓の基礎を作ったということだと思っんですね。私自身もそうですが魅力がないと続けられないと思います。皆さん、米子がいな太鼓のどういうところに魅力を感じておられますか？

梅林 がいな太鼓は、組曲太鼓なんだけど、突き詰めれば突き詰めるほど難しい曲で、なんだか探求心が湧いてくる面白味があるし、世間にアピールする新しい形であったと思います。さーっと通してしまうと何ともない曲に聞こえるけど、個々の技術を高めていくと素晴らしいもの

が出来上がっていく。技術がアップできるのがリズム組曲太鼓だと思います。当時は、天野宣さんに直接指導を受けて、その音楽の伝え方がすごく正確で全体像も口で表現できる、そういうところを直接教わりました。

本田 そうですね。それは同感！

小林ま 私も似たような考えで、やっぱり難しい曲でした。表現の仕方が最初考えていたのと丸で違って、その辺が魅力かな。もちろん技術もだと思っけど、気持ちの入れ方に惹かれたっていうのが続けられた理由かなと思います。

柴田ゆ 私は子どもでし、太鼓を打つことに関しては爽快感。もう一人の自分っていうのが青春の最中の10代の身に入ってくるもので。青春そのものだったかもしれない。太鼓も大好きでしたけど、メンバーの人間関係が大好きでした。太鼓の持っている魅力と人間力の両方が若連にはあって続けられたんだと思います。

小林み 私は、自分のエネルギーをぶつけるのに本当に丁度よかった。なんせ人と違う事や目立つことが好きなので。それにバチッとハマった感じでした。メンバーとの付き合いもとても楽しかった。



橘谷 私は、立台をして鬱憤ばらしがものすごくできた。恰好で太鼓を叩くのと違って、太鼓に向かって強・弱それだけで打つと、会社でいろいろとあっても太鼓にぶつけて発散していた。それ以外は見知らぬ所にちょこちょこ行かしてもらったことが一番記憶に残っていますね。

柴田み がいな太鼓はイメージが全然違った。譜面があるのと、リズムだけでなくメロディーがあって。はじめは立台をやってたんですけど、面に向かって全身で打ち込むのが性に合っていたかも!?それから平太鼓に移ったんですけど、それはそれで動きも違う。今回失敗したら次はこうしよう、ああしようって、向上心が次々掻き立てられるというか、なかなか満足できなくて。そういう奥深さががいな太鼓の魅力だと思います。練習の雰囲気も良く、あちこち県外遠征が楽しくていい思い出です。

小林ま 4～5日くらい亀山や総社に行って遠征して回ったことがあったし、風林火山のレコーディングも2～3日したことがすごい思い出だ。

【 当時の思い出 共に乗り越えた苦楽の舞台裏 】

本田 がいな太鼓の魅力について伺いましたけど、現在に至っては様々な曲があります。その大本は、「米子のがいな太鼓」という曲です。リズム組曲太鼓に一番最初に我々が巡り合ったこと、これが50年まで続く元になったんじゃないかなと思います。「米子のがいな太鼓」の6楽章は、リズムが変化していくというのが我々にとって非常に新鮮じゃなかったかな。だからやればやるほど難しくなる、何度やっても出来ない、満足感が得られないというところが、がいな太鼓の魅力のひとつだと思います。皆さん、この思い出が一番楽しかったっていうのはありますか？

小林み 泊りで合宿、楽しかったね！

柴田ゆ すごい楽しかったね！

梅原 香取の合宿では、例の如く夜遅くまで大騒ぎしとったら小林さんに喝いれられて、「おまえたち、いつまでやっちょうだー！」ってな。あの時はシュンとしてな、そういえばそげだなと…。

本田 小林さんが怒ったのは、後にも先にもあの時だけ。

橋谷 大変な思いかー、ひとつあるな！盲腸で入院して、退院した日にがいな太鼓の車に乗せられて太鼓叩いて、これは苦しかったな。痛くて痛くて、曲が一曲すんだ時点で、わしもう知らんって…これが一番記憶にあるな。

小林み 私ね、福山の温泉のオープニングに泊りで行ったの。3人娘で温泉三昧。あれは結構楽しかった。今でも覚える。温泉もいろんな種類があって。

本田 法被姿で、ウォーターライダーに飛び込んだやつがおった。それでわしのがいに怒って、「なんで法被でそんなことをするだー！」みたいなこともあったし…。

柴田み ほかに本田さんがすごく怒ったのは、遠征に行った甲子園だったかいな！？メンバーのうちの二人が遅刻してすごく怒られた。みんなの前でものすごく本田さんが怒った！それがすごい印象に残ってる。

本田 まあしょっちゅう怒ってたけんね。面白い話というね、大山の香取で梅さんとバチの持ち方で言い合いになったことがあった。例えばドンドコドンドコというリズムを打つときは前で持つか？ズドーンという大きな音を出すには、後ろで持つか？とか、これで言い争いになった。

梅林 わしはわしなりに、バチの持ち方の考えを持っちゃったけんね。

本田 どっちも引かんかった。それをだまーって聞いてたのが、今の2代目の宗家。一同（笑）



本田 逆に辛かったイメージはなんかある？

柴田ゆ 私は女性ならではの辛いというか。最初、法被の下が晒だったじゃないですか。巻き加減がきついか弱い言いながらやってもらいつつ、弱いとすぐヘラヘラとなるし、キツすぎると苦しい！となって。晒が落ちんか心配はあったんですけど、皆さんに迷惑かけたなと…。

本田 車夫に変えたのは、確かフィリピンのマニラに行くときですね。あの頃はまだ天野会だったんで、勝手に車夫に変えたら天野先生に怒られる。だけど私はその当時から天野宣という人から離れていくつもりだったんで、遠藤さんと梅さんに相談して車夫に変えました。それがなかったら、いまだに晒を巻いとるかもしれん！？

柴田ゆ 足袋が布底からゴム底に変わっていく流れがあったじゃないですか。夏は足が熱くて、雑巾で濡したら蒸れてまた熱くなって。幹也さんは立台をやったけど、ゴム底が薄くて杭が突き抜けたことがあったりとか。今はエアー底ですもんね。

本田 確かにね。今は分厚いエアー底の足袋を履いてやるとるんだけど、今日の暑さは並大抵の暑さじゃない！演奏しとると、そのゴム底が溶けてズレてくる。こんな暑さでよくやっている！

小林み 足の裏、やけどだったもんねー！

【 50年間の思い出 変わりゆく時代で繋いだ伝統 】

本田 さあいいよ今年50周年ということで、梅さんや小林さんらと昔よく10年、20年…50年と頑張ります！なんて話をしてましたね。それが現実の世界に近づいて、今年50周年となりました。皆さん、50年ががいな太鼓が続くと思っておられました？

梅原 わしは続くと思っちゃった！

小林み うん、続くと思っちゃった！

梅林 今、子供連の子どもたちが育ってきて組織が続いているんで、続くだろうなと思ってた。

橋谷 米子人は、熱しやすく冷めやすいという気質があるけん、がいな祭を今後も続けられるだろうか？という疑



問符がでたけど、JC(青年会議所)がずーっと受け継いできて続いている。このがいな太鼓もしかり。熱っしやすいもんが集まってきて、なんか面白いなってやったら、今度はみんなが辞めるに辞めれない状態になってしまった。次に、若あゆ、子供連を創ってものすごく大きくなってきたから、今更辞められんというのかな!?親は送り迎えもあって大変だと思うけど、頑張ってる。ほんとに保護者には頭が下がる。これからも続くと思います!

本田 力強いお言葉で!

梅原 それと、本田君が曲を創って、いろんな曲ができたけん、太鼓人口が増えたんじゃないかと思う。「米子がいな太鼓」だけだったら11人でいいじゃないかというレベルになってしまう。子どもの曲を作ったり、いろんなチームの曲を作ったりしたのが刺激になって、各チームが曲を作り出したのが大きいんじゃないかと思う。

柴田み がいな祭が続く限りは続くんだろうと思います。がいな祭はひとつの目標ですからね!

梅原 祭りと言えはがいな万灯だけど、その曲を作ったのはがいな太鼓。それが今でも継承されている。その曲を作ったっていう自負もあるね。

柴田ゆ 50年というすごい長さ、大事にしていけないといけないと思う。辞めていった者は応援するしかない。がいな太鼓はきっと無くならずには続いてくんでしょね。

小林み 組織としての体をなした分、窮屈かな?と思うが、のびのびと楽しいだけの組織じゃなくなっているな、というのは感じる。

柴田み 昔は自由にできたけど、組織が大きくなると決まりごともある。こういった意味では大変でしょうね、受け継ぐ方も大変でしょうけどもね…。

梅原 今のメンバーもそういう経験が出来ればいいな。

小林み 2代目から3代目の移行がうまく出来るかどうかだね。

橋谷 どう、うまく繋いでいくか。

【 未来への展望 次世代への期待と思い 】

本田 今10代前半~20代前半、いわゆる若いメンバー、大人のメンバーが結構おります。それが1つのチームを構成している。我々の若い頃よりちょっと小粒だけでも、太鼓は上手いよ!そういうことで、今後も続くと思っております。がいな太鼓がさらに100年に向かって進んでいくわけですけど、今後に向かって何か期待することはありますか?それを最後にしたいと思います。

梅原 期待以上のことが全体として出来ている気がする。

る。実際、30周年、40周年の時の太鼓を公会堂で見ると、我々がおった頃とは全然レベルが上がってるんですわ!それを維持していくことが今は大変だなと思う。頂点である「極」は発展してもらって、底辺を今まで通り広げて、とっつきやすい太鼓の姿も創りながらその上も創っていく。40周年の記念コンサートを見とってすごい感動した!あの気迫のある所作と音、すごい演奏をしとるんですわ!十分に高められたものを、もっと若い人に引き継いでほしいなと非常に感じました。「極」という身震いするくらい素晴らしい組織が今出来とるんで、維持してってもらいたい。

小林ま わしらの頃、米子市に伝統芸能がなかったの、何とかこの太鼓を伝統芸能として育てようとして今年50周年か!だけどもまだこれからだと思いますんで、がいな太鼓が伝統芸能だと皆さんに認められるように頑張ってもらいたい。今の人はその辺も頭の隅において、もう50年目指して次世代まで引き継いでいってもらいたいです。

柴田ゆ 技術的には50年かけてしっかりと身につけてこられていると思いますし、プロでもないのにしっかりと組織をつくっておられることは、本当に大変なことだろうなと思います。若い人たちが、自分の気持ちを本当に表現できる、楽しく言いたいことが言える、良い組織になってもらいたくなってすごく希望します。

小林み 私が思うのは、楽しいが一番にくるような組織になってほしい。はたから見ても楽しい、良いがいな太鼓の組織にしてほしいです。



柴田み メンバー同士の繋がりを大事にしてほしいです。いい太鼓をしようと思うと、本人が楽しくないといけません。メンバーが楽しくやっていたりするような環境を創ると自然と60年、70年、100年が見えてくるんじゃないかと思えます。下の方からいろんな意見が言えて、全員でひとつのものを作り上げていく、そういうことを期待しています。

橋谷 練習にきた子どもたちが全員それについていけるかは、指導者に責務があると思う。がいな太鼓の分身達がたくさんおればおるほど、太鼓も長く続くと思う。指導者とコミュニケーションをとりながら、みんなが和をもっていけば続けられると思いますので、後は指導者の育成も課題だと思います。

本田 皆さん様々な意見を話していただきました。これにてお開きとさせていただきます。ありがとうございます。